

読んだ本(ザイム・ヴェンダース/原案 高崎 卓馬/絵・文

ウエンディー・ティルビー&アマンダ・フォービス/絵) スイッチ・パブリッシング

『ともだちの木』

川崎市立西菅小学校六年 小杉 日真里

こすぎ ひまり

ともだちの木。それは、ともだちが育てている木？それとも、自分のともだちが木？この本を手にとったとき、私はそんな疑問を抱えながら読み始めました。

読み進めていくと、疑問はすぐに解決しました。友達がいらない少年に木が話しかけて友達になり、友情を広げていきます。友達になった木が少年の気持ちを伝えてくれる心温まる話でした。

本を読み終えた後もずっと心に残っている言葉があります。それは「みんな孤独だよでもそう気がついたら孤独って別に悪いことじゃないからね」という言葉です。私は孤独になることを不安に思っていました。友達と過ごす時間が好きだからこそ、一人で過ごす時間があれば不安な気持ちになります。そんな私にとってこの言葉は孤独に対する私の考えを変えてくれたのかもしれない。孤独ということを不安に思っていた自分もいつの間にかいなくなっていました。

最後に「君には、この声は聞こえるかな？」と木が少年に呼びかけたように、読者にも呼びかけているように感じました。私達も少年と同じ気持ちになり、この「ともだちの木」という本の世界に入ってほしいという願いがこめられているのだと思います。この声があるかな？読者の本を読み終えることができるのも魅力に感じました。

「ともだちの木」は、筆者の思いを受け取って一人一人の可能性を引き出してくれる本です。ぜひ、みなさんもこの本を読んで、自分の可能性を引き出してみてください。